

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：そよかぜ保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：久永 幸男	定員（利用人数）：90名	
所在地：〒226-0003 横浜市緑区鴨居1-13-3		
TEL：045-933-1231	ホームページ：https://www.soyokaze-h.com	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2005年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 横浜かがやき会		
職員数	常勤職員：15名 非常勤職員：21名	
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：32名 看護師：1名	
	幼稚園教諭：24名	
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0・1歳児室 3室	（設備等） 設備：調理室
	居室：2歳児室	設備：調乳室
	居室：3歳児室	設備：地域子育て支援スペース
	居室：4歳児室	設備：事務室
	居室：5歳児室	設備：乳幼児用トイレ
	居室：一時保育室	設備：多目的トイレ
		設備：ウッドデッキ
	設備：園庭	

③理念・基本方針

<保育理念>

「児童憲章」「児童福祉法」「保育所保育指針」ならびに「子どもの権利条約」に基づき、保育理念を定める。

- (1) 子どもの健やかな育ちの保障
- (2) 保護者に安心と信頼をされる温かな支援
- (3) 子ども同士、子どもと大人、保育者と保護者などが共に育ち合う
- (4) 地域の子育て支援の充実

<保育目標>

いきいきと健やかに充実した毎日を過ごし、人との関わりを通して育ち、意欲と自信を持って未来に向かって生きる子ども

- (1) 機嫌のよい子ども
- (2) 感性豊かな子ども
- (3) 仲間と共に育ち合う子ども

- (4) 自ら進んで行動する子ども
- (5) 我慢のできる子ども

<保育方針>

- (1) 安全・安心・清潔な場
- (2) 寝る・食べる・遊ぶを大切に、規則正しい生活リズムの中で機嫌よく育てる
- (3) 静かな落ち着いた環境の中で、柔らかな感性、豊かな情操を育てる
- (4) 子どもたち、大人たちとの関わりの中で、共に育ち合う
- (5) 地域に根ざした保育園を目指す

④施設・事業所の特徴的な取組

<そよかぜ保育園の特徴的な取組> (基本情報 I-3 の記載事項)

- 常勤保育士全員が参加する隔月1回土曜日に実施の山梨県立大学名誉教授(臨床心理士)によるケースカンファレンスによって、自分の担当する園児のみならず、園内のすべての園児や保護者に対する支援の方法について学ぶことができ、保育士の資質の向上につながっていると考える。
- 外部講師による各種体験プログラム(音楽・絵画・自然・陶芸・体育・わらべうた)を実施し、子どもたちにさまざまな体験活動を提供するとともに保育士の資質の向上を図っている。特に自然教室は、自然との触れ合いを通じて、自然への理解や人間性の向上などさまざまな学びを促すことができる。わらべうたは、園児と保育士が、古くから歌い継がれてきた伝承遊びを味わい、触れ合い遊びとして愛着関係を育み、歌に合わせて手指や体を動かす楽しさを知ることができる。
- その年齢に合ったおもちゃや絵本が充実し、広いウッドデッキや乳児用すべり台、クライミング遊具が設置されていて、子どもたちの発育発達を促している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年06月01日(契約日) ~ 2024年02月15日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	4回(2018年度)

⑥総評

【そよかぜ保育園の概要】

●そよかぜ保育園は、社会福祉法人 横浜かがやき会(以下、法人という)が運営する認可保育所であり、平成17年4月に開設され、19年目を迎えています。園が所在する緑区は横浜市の北西部に位置し、横浜市全18区の中でも緑の多い地域です。広大な公園や緑を数多く有し、区内を流れる鶴見川や恩田川等にも多くの自然が残されています。そよかぜ保育園は、JR横浜線鴨居駅から線路に沿って徒歩5分程度の至近距離にあり、駅周辺には大きな公園や地区センター等があり、外遊びに適した施設が充実しています。すぐ近くには鶴見川が流れ、堤防は子どもたちの散歩コースであり、安全で広い遊び場もたくさんあり、昆虫や四季折々の草花、小鳥のさえずりを聞き、園庭裏では畑を作り、芋掘りを体験する等、自然の中でのびのびと育まれる環境にあります。

●そよかぜ保育園は、定員は90名で、在籍児童数(0歳~5歳児)は87名(調査時)です。園舎は鉄筋コンクリート造の2階建てで、吹き抜けの大きないくつもの窓から陽が注ぎ、明るく開放感あふれる園舎です。吹き抜けの構造により各保育室の子どもたちの顔が見え、安心感と楽しい雰囲気を出した保育環境です。共有スパー

ス、乳児の保育室から出入りができる広いウッドデッキは園庭に続き、2本のシンボルツリーとクライミング設備（くまさんツリー）が設置され、楽しく遊べるよう工夫されています。1階は、事務室、乳児トイレと多目的トイレが各2か所設置され、0歳児、1歳児のゆとりある保育室と、中央には吹き抜けの広い共有スペースを設け、子育てスペースや体験プログラム等で活用しています。また、広い調理室は清潔・衛生的に保たれ、調理の準備中は吹き抜けを通して2階の各保育室まで子どもたちの食欲をそそる、おいしそうな匂いが漂います。2階は、幼児トイレ2か所、2歳児、3歳児の保育室が独立し、4歳児～5歳児はオープン保育室になっています。

●そよかぜ保育園の保育理念は、「子どもの健やかな育ちの保障」、「保護者に安心と信頼をされる温かな支援」、「子ども同士、子どもと大人、保育者と保護者などがともに育ちあう」、「地域の子育て支援の充実」の4つを掲げ、理念に沿って保育目標、保育方針を立案しています。また、児童憲章の「児童は、人として尊ばれる。」「児童は、社会の一員として重んぜられる。」「児童は、よい環境の中で育てられる。」を心得、人権の尊重の基底とし、「子どもがどれだけ尊重されているか」を最重要と捉え、全職員統一した意識を持って保育に当たっています。そよかぜ保育園では、子どものありのままの姿を受け入れ、すべての子どもたちが、自分を「かけがえのない存在」と感じ、自信を持って生きて行かれるよう、子どもが本来持っている力を十分発揮できるよう育成しています。

◇特長や今後期待される点

1. 【職員の教育1：ケースカンファレンスの実施】

そよかぜ保育園では、臨床心理士である山梨県立大学名誉教授によるケースカンファレンスを実施しています。隔月1回、土曜日に常勤保育士全員が参加するケースカンファレンスを実施し、担当する園児のみならず、全ての園児や保護者に対する支援の方法について学んでいます。ケースカンファレンスは、Zoomも併用し、講師から「保育の進め方」を示唆してもらい、学びが保育士の振り返り・確認及び自信となり、園児や保護者への支援方法の向上につながっています。

2. 【職員の教育2：外部講師による各種体験プログラム】

そよかぜ保育園では、外部講師による各種体験プログラム（音楽・絵画・自然・陶芸・体育・わらべうた）を実施しています。子どもたちに様々な体験活動を提供すると共に、保育士の資質の向上にもつなげています。特に自然教室は、自然との触れ合いを通じて、自然への理解や人間性の向上等、様々な学びを促すことができます。また、わらべうたは、園児と保育士が、古くから歌い継がれてきた伝承遊びを味わい、触れ合い遊びとして愛着関係を育み、歌に合わせて手指や体を動かす楽しさを知ることができます。保育士は、外部講師のノウハウを吸収し、そのノウハウを自分の保育に生かせるよう、子どもたちと共に学んでいます。

3. 【働きやすい職場づくり】

そよかぜ保育園では、保育士不足の現状を鑑み、新卒保育士、直接の応募の減少等を考慮して、採用促進と併せて働きやすい職場づくりに取り組み、保育士の定着率を高めることを重要認識としています。具体的には、①完全週休2日制の実施、②年休消化率のアップ、③サービス残業なし、④できる限りシフトの希望を受入れる、⑤資質向上を図るため積極的に研修会等への参加を奨励する、⑥福利厚生体制の充実、⑦保育士のキャリアアップの推進、気軽に話し合えるような関係性の構築等、各種施策の達成を目指しています。働きやすい職場の実現と共に、ひいては特長ある保育園（職員

のモチベーション向上、エデュケア保育等)として、一つ先に行く保育園の在り方を考え、推進を図っていかれることを期待します。

4. 【地域育児支援事業、への参加者の促進】

既に地域の子育て支援の活動を展開していますが、コロナ禍もあり地域の方々との交流は控える期間もありましたが、子育て世代人口も増え続けている近隣の動態事情から乳児の入所希望・ニーズが高まっており、一時保育希望者も多い現状であり、地域子育て支援事業や一時保育の拡充が求められています。園では、地域育児支援への機能を果たせるよう、多様なニーズに対応し、身近な存在として気軽に足を向けられる存在であるよう取組を考えています。園のホームページ(地域育児支援事業、地域交流事業に関しては現在構築中)では、地域子育て支援の詳細、一時保育を分かりやすく伝え、Webで予約ができる等、利便性を増やし、また、障害児の受け入れができる園の情報提供及び対応等を記載し、送迎支援ができれば保護者にとって選択が尚、優位になることでしょうか。また、職員の体制づくりも急務とし、そよかぜ保育園のノウハウの発揮に期待いたします。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 そよかぜ保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取り組みの感想》

当園は、2005年4月に開園して以来19年目を迎えています。福祉サービス第三者評価については、2007・2010・2013・2018年度に受審し、今回5回目の受審となりました。

今回の自己評価については、職員を経験年数や勤務形態の近い者で2~4人の8グループに分け、各自で評価した自己評価結果表を持ち寄り、勤務時間中の指定された日時に約1時間の話し合いを行い、グループごとに自己評価結果表を作成し提出してもらいました。その後、園長と副園長等で園としての自己評価結果を取りまとめ提出しました。

当園の保育士・看護師の内、半数以上が非常勤職員で、週に数日勤務や午後勤務等の職員も多く、保育内容については一定の自己評価をしているものの、園の経営状況や人材確保・人材育成、職員の質の向上に向けた体制等については、あまり理解されていないことが分かりました。多くの項目について評価をしていく中で、園としてあるべき姿や、現状の再確認ができ、改善すべき点等の気づきに役立ちました。

訪問調査では、自己評価決定表の内容を説明する中で、「この項目は、このような観点から評価できます」等、提出済みの自己評価について、思いのほか高い評価をしていただき、その場で変更した項目も多くありました。今回の第三者評価を通じて、見直しや改善を図るべき事項、日々の保育について自信を持って引き続き行っていく箇所等、再確認することができ、大変有意義な機会となりました。

今後も、そよかぜ保育園の保育理念である「子どもの健やかな育ちの保障」「保護者に安心と信頼をされる温かな支援」「子ども同士、子どもと大人、保育者と保護者などが共に育ち合う」「地域の子育て支援の充実」に添って、地域に信頼される保育園となれるよう努力していきたいと思っております。

最後に、受審に協力していただいた保護者や職員、第三者評価機関の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

《評価後取組んだこととして》

1. 2024年2月下旬に実施する「2023年度振り返り及び、2024年度保育事業計画の話し合いや、6月第2土曜日に実施予定の園内職員研修等において、不十分であった事項等を確認し、周知していきたいと考えています。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり